

2024 年 10 月 9 日 全 16 頁

「東海」「四国」など 7 地域で改善～石破新政権や海外情勢の動向も注視

2024 年 10 月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
研究員 田邊 美穂
研究員 高須 百華

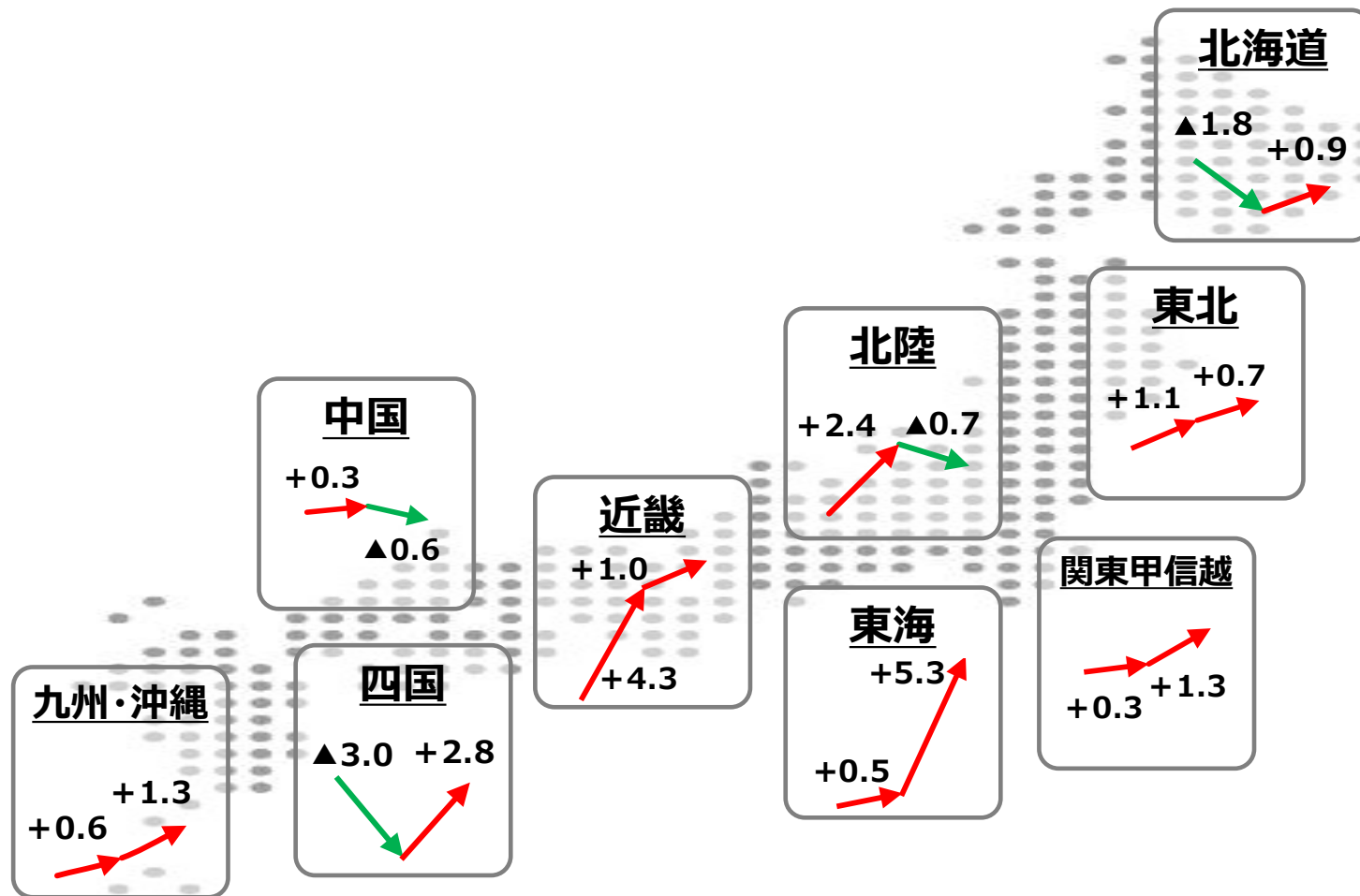
[要約]

- 2024 年 10 月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東海」「四国」を筆頭に 7 地域で改善し、「北陸」「中国」では悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費が「関東甲信越」「四国」「東海」「近畿」などで改善した。「関東甲信越」「四国」では一部車種の生産・出荷停止が解除されたことで新車販売台数が改善しており、猛暑効果などで家電販売額でも改善した。さらに「東海」は国内外の観光客増加などにより飲食・宿泊サービスにおいても改善が見られた。「近畿」は家電販売額で改善した。一方、「北海道」ではエアコン需要に一巡感が見られることから家電販売が悪化しており、消費がマイナスとなった。雇用・所得環境は賃上げが進む一方、「北陸」では悪化した。住宅投資については、前回から大きな変化は見られなかった。企業関連では、生産は「東海」「九州・沖縄」「東北」を筆頭に改善した。「東海」「九州・沖縄」では輸送用機械や電子部品・デバイスなどが改善しており、「東北」では生産用機械等がプラスとなった。さらに輸出は「北海道」で食料品が改善し、「東海」は輸送用機械や金属製品などで改善が見られた。また、企業マインドは地域によってばらつきがあり、「東海」「四国」「九州・沖縄」で改善し、「北陸」「中国」では悪化した。「東海」では非鉄金属や建設、「四国」では紙・パルプなどでプラスの寄与が見られた。一方、「北陸」では宿泊・飲食サービスなど、「中国」では木材・木製品などの影響で企業マインドが悪化した。設備投資は前回から変化はなかった。
- 全国的に見ると、日本経済は緩やかな回復基調にある。乗用車の供給制約の緩和や猛暑効果、インバウンド需要の高まり、賃上げ効果などで消費は改善しており、乗用車の持ち直しなどで生産や輸出も好転するなど、足もとの家計・企業を取り巻く経済環境はおおむね改善している。一方で、一部地域では企業マインドの悪化や物価高の影響も見られる。また、石破新政権下での地方創生策や米国大統領選の動向が注目されており、さらに中東情勢の緊迫化もあって、国内外の経済・政策動向は不確実性が高まりつつあるといえる。今後は、物価上昇と賃上げの好循環の持続性だけでなく、石破新政権や海外情勢の動向も注視しながら、地域経済の動向を見守る必要があるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクス課が担当している。

※ 本レポートの文章は GPT-4o ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (24 年 4 月→7 月、24 年 7 月→10 月)



(注 1) 各地域の数値は、2024年4月から7月の変化幅と2024年7月から10月の変化幅。

(注 2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（24 年 7 月→10 月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	+0.9						
東北	+0.7						
北陸	▲0.7						
関東甲信越	+1.3						
東海	+5.3						
近畿	+1.0						
中国	▲0.6						
四国	+2.8						
九州・沖縄	+1.3						

（注）さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

（出所）日本銀行資料より大和総研作成

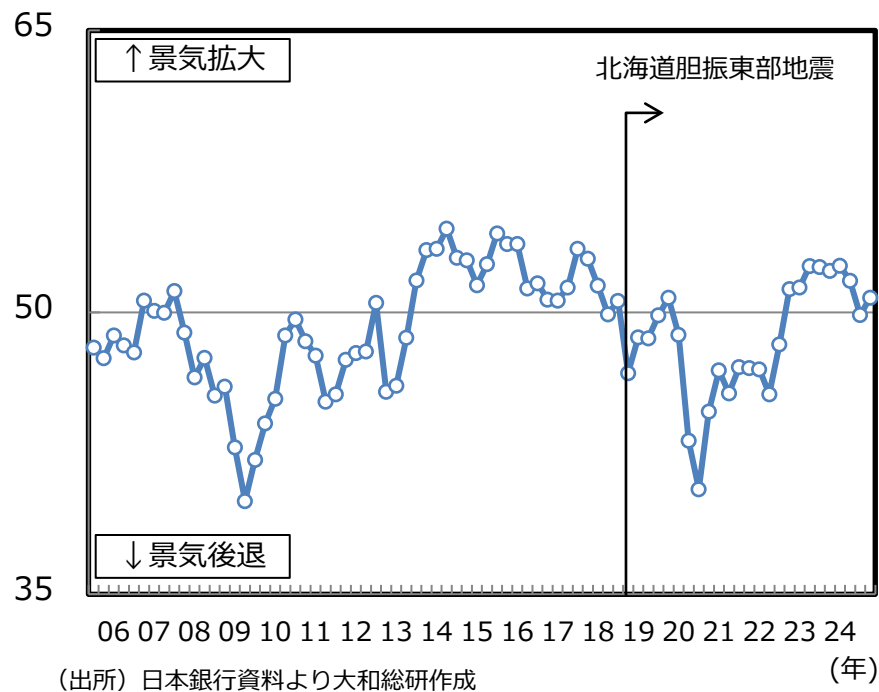
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (24 年 7 月→10 月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(24 年 7 月:49.9→10 月:50.8)。消費の判断が悪化したものの、輸出や生産の改善がインデックスを押し上げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:49.7→10 月:50.4)。生産などの改善がインデックスを押し上げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 7 月:47.4→10 月:46.7)。生産や消費が改善したものの、企業マインドや雇用・所得環境の悪化がインデックスを押し下げた。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:50.2→10 月:51.5)。消費や生産の改善がインデックスを押し上げた。
東海	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:50.9→10 月:56.2)。生産や企業マインド、輸出、消費の改善がインデックスを押し上げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:52.1→10 月:53.1)。消費や生産、輸出の改善がインデックスを押し上げた。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 7 月:51.7→10 月:51.1)。消費が改善したものの、企業マインドなどの悪化を受けてインデックスは低下した。
四国	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(24 年 7 月:48.1→10 月:50.9)。消費や企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:50.5→10 月:51.8)。生産や企業マインド、消費の改善がインデックスを押し上げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(24 年 7 月:49.9→10 月:50.8)。
- 消費の判断が悪化したものの、輸出や生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費はエアコン需要に一巡感が見られることから家電販売の悪化によりマイナスとなった。一方、輸出はホタテの輸出量が回復しつつあり、生産ではスマホや車載向けの電子部品・デバイスで改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



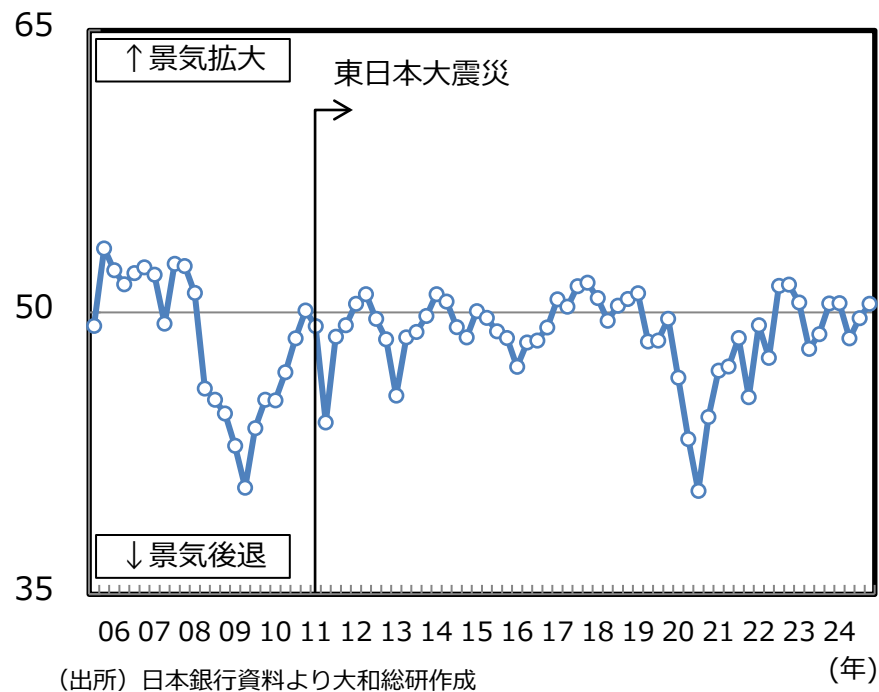
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している	一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している
【生産】	↑
横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる	横ばい圏内の動きとなっている
【輸出】	↑
下げ止まっている	回復している

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:49.7→10 月:50.4)。
- 生産などの改善がインデックスを押し上げた。
- 半導体メーカーの設備投資需要の持ち直しもあって、生産では生産用機械等で改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



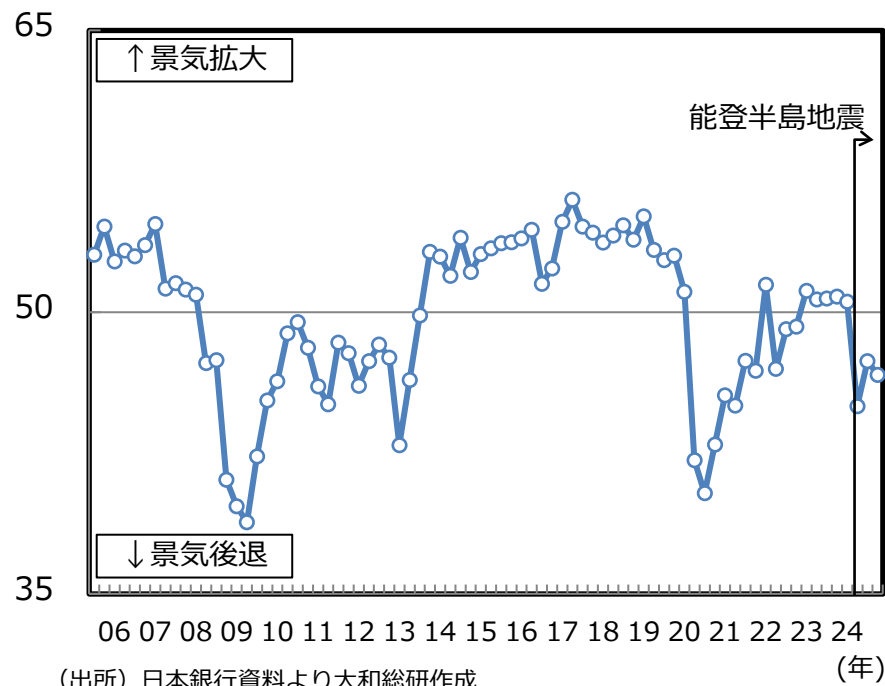
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	→
改善している	改善している
【生産：生産用機械等】	↑
下げ止まっている	緩やかに持ち直している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 7 月:47.4→10 月:46.7)。
- 生産や消費が改善したものの、豪雨の影響などもあり企業マインドや雇用・所得環境の悪化がインデックスを押し下げた。
- 生産は化学や金属製品で改善している。一方で、企業マインドが宿泊・飲食サービスなどで悪化しており、雇用・所得環境も北陸新幹線延伸に向けた人手確保の不服感や人件費総額を増やせないこと等の影響もあり悪化している。

大和地域 AI インデックスの推移



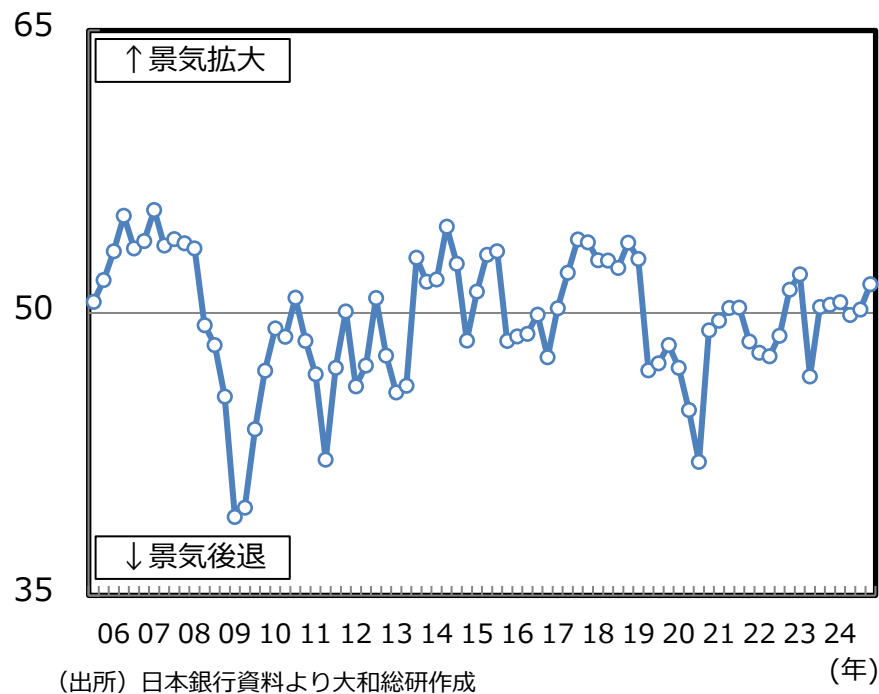
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	↑
能登半島地震の影響により一部に下押しがみられており復旧の途上にあるものの、復旧復興需要や生産正常化が進むもとの、回復に向けた動きがみられている	一部に能登半島地震の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある
【生産】	↑
地震の影響により一部で生産水準が低下しており復旧の途上にあるものの、足もと持ち直しつつある	一部に地震の影響が残るものの、緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↓
緩やかに改善している	横ばいの動きとなっている

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:50.2→10 月:51.5)。
- 消費や生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は一部完成車メーカーの出荷停滞の影響が和らいで乗用車新車登録台数で改善した。また猛暑効果もあって家電販売額でも改善している。生産は輸送機械で改善が見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



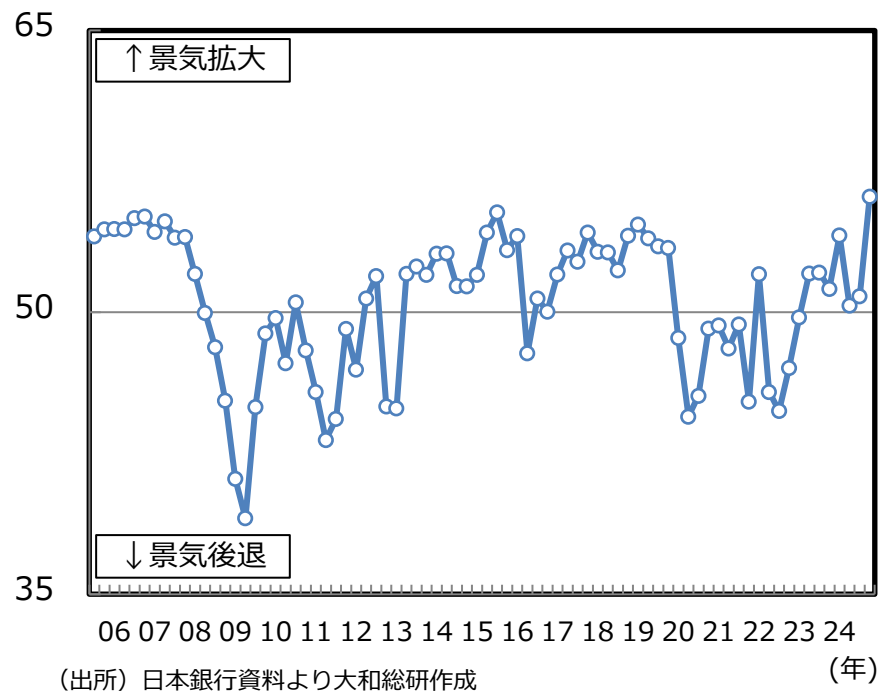
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【個人消費】	↑
一部に弱めの動きがみられ、増加ペースが幾分鈍化した状態が続いている	物価上昇の影響などがみられるものの、インバウンド需要による押し上げ効果もあって、緩やかに増加している
【生産：輸送機械】	↑
弱めの動きとなっている	持ち直している

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:50.9→10 月:56.2)。
- 生産や企業マインド、輸出、消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は輸送用機械や電子部品・デバイスなど、輸出は輸送用機械や金属製品などで改善し、企業マインドも非鉄金属や建設で改善した。消費は乗用車販売や家電販売だけでなく、国内外の観光客増加などで飲食・宿泊サービスでも改善が見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



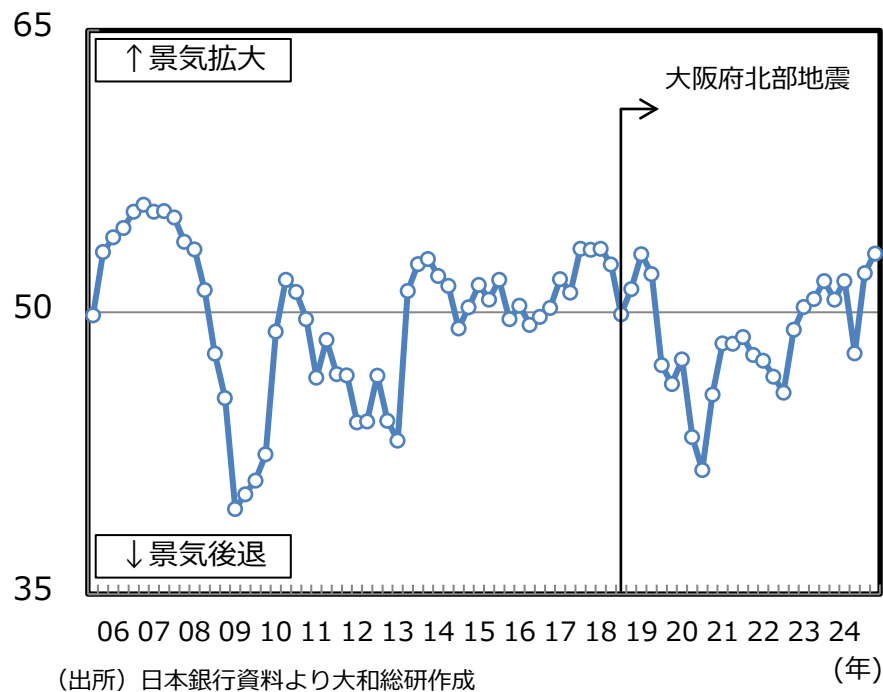
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	↑
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	緩やかに回復している
【生産】	↑
下押し圧力を受けているものの、増加基調にある	増加基調にある
【企業の業況感】	↑
小幅に悪化している	改善している

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:52.1→10 月:53.1)。
- 消費や生産、輸出の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は記録的な猛暑を受けてエアコンの売上が伸びたことで家電販売額において改善した。生産については輸送機械で改善しており、輸出も半導体関連の需要を中心に改善が見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



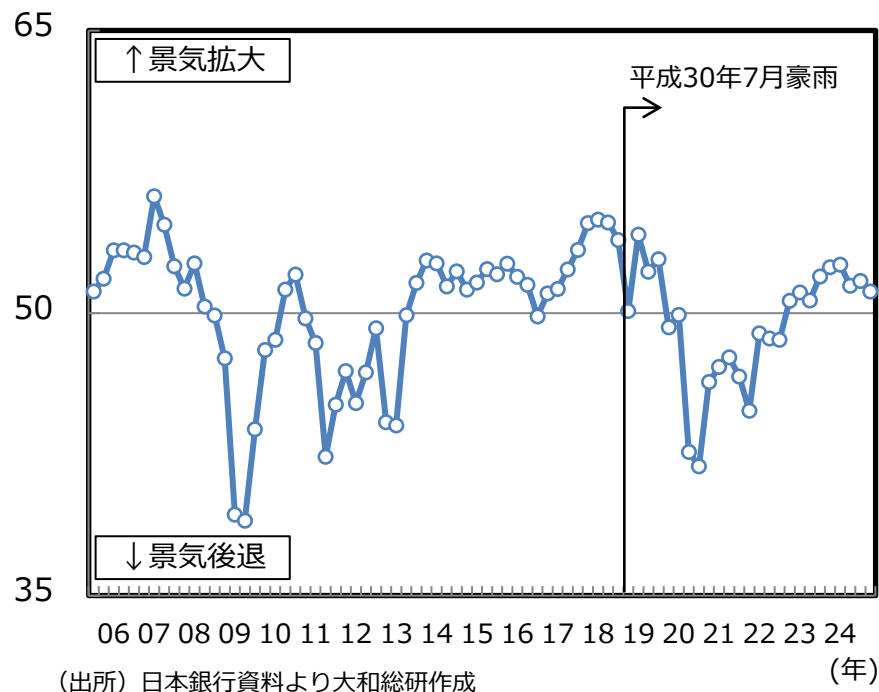
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
【個人消費：家電販売】	↑
弱めの動きとなっている	持ち直している
【輸出】	↑
弱めの動きがみられている	横ばい圏内で推移している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 7 月:51.7→10 月:51.1)。
- 消費が改善したものの、企業マインドなどの悪化を受けてインデックスは低下した。
- 消費は乗用車販売で改善が見られる。一方、企業マインドは木材・木製品製造業などの影響で悪化しており、雇用・所得環境もやや悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



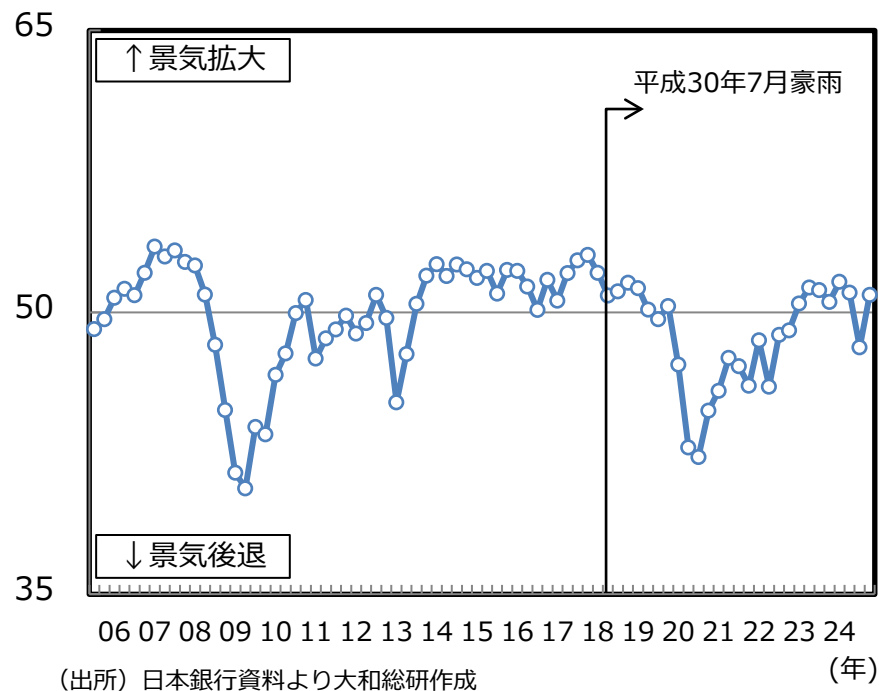
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかな回復基調にある	緩やかな回復基調にある
【企業の業況感】	↓
小幅に改善している	横ばいとなっている
【生産】	→
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(24 年 7 月:48.1→10 月:50.9)。
- 消費や企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は猛暑効果と電気代高騰で省エネの高価格帯のエアコン販売が伸長し、家電販売で改善した。一部車種の生産・出荷停止の解除によって新車販売でも改善している。企業マインドは紙・パルプなどでプラスの寄与が見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



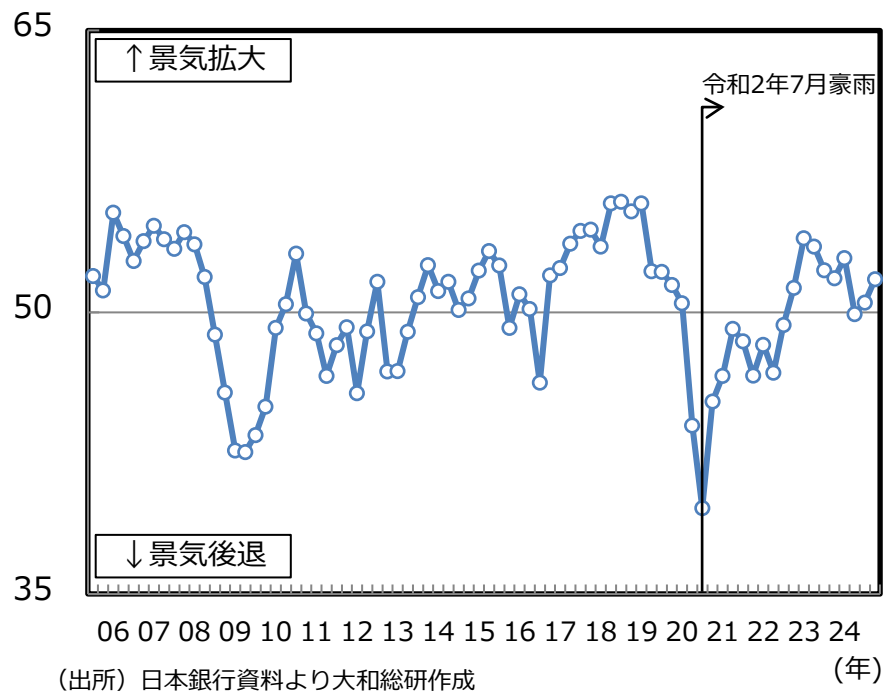
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	↑
持ち直しのペースが鈍化している	緩やかに持ち直している
【消費：乗用車販売】	↑
弱い動きとなっている	持ち直している
【企業の業況感】	↑
悪化している	改善している

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(24 年 7 月:50.5→10 月:51.8)。
- 生産や企業マインド、消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は自動車や電子部品・デバイス、食料品で改善しており、企業マインドも改善した。さらに消費でも、猛暑の影響で家電販売において改善が見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 7 月	24 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している
【生産：電子部品・デバイス】	↑
在庫調整の影響がみられているが、全体としては高水準で推移している	高水準で推移している
【企業の業況感】	↑
幾分悪化したものの、全体として良好な水準を維持している	幾分改善している

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現すること**が我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握すること**が必要となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2024 年 10 月 7 日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

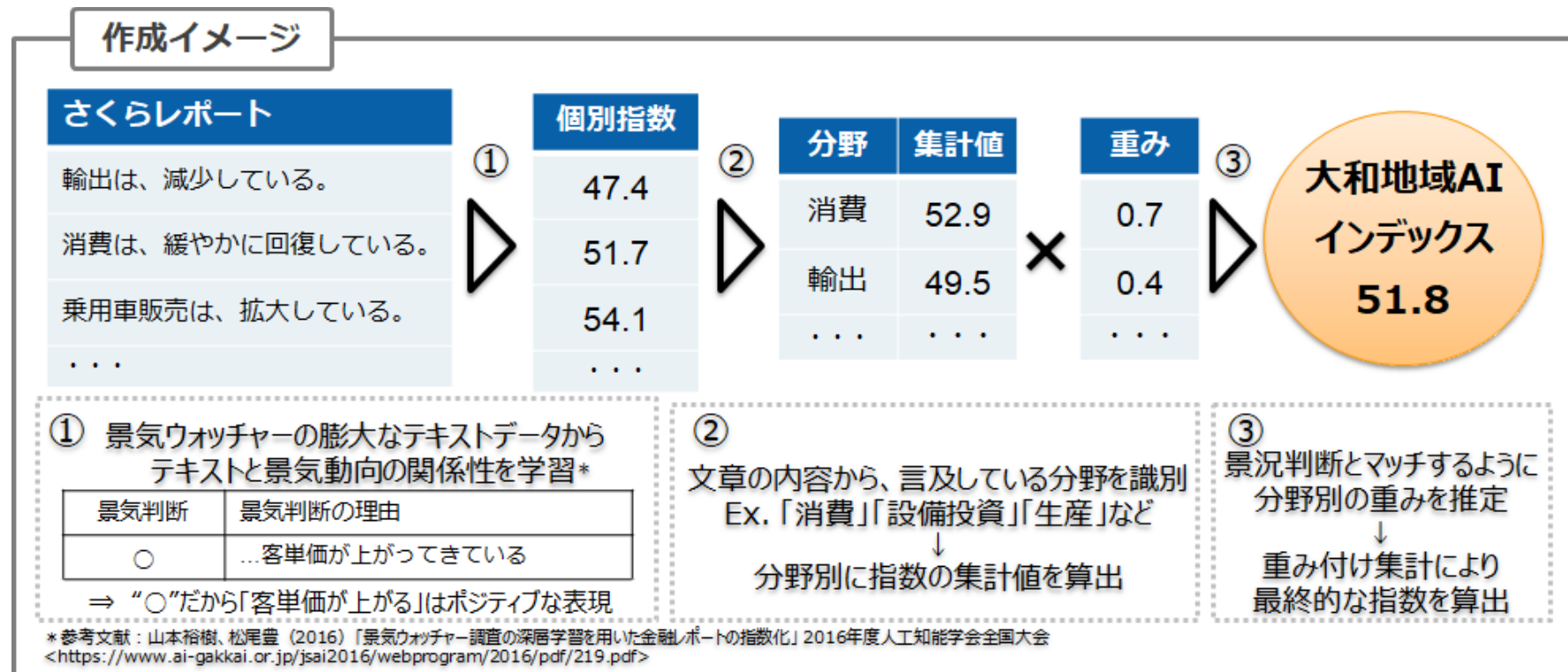
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

（出所）日本銀行より大和総研作成